

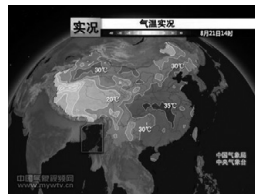
武漢熱線

大分市武漢事務所
全 淑 麗

Wu-han Hot Line

武漢の酷暑生活について

2013年の夏は灼熱地獄です。この夏の天気予報を見ると、中国全土は赤い酷暑マークや、青い暴雨マークで覆われていますが、真ん中の武漢はほとんどが酷暑マークで、7月から摂氏35度以上の猛暑日が既に36日間続いています。



天気予報

長江大橋の路面は大体50～60度の高温で、警備兵士は、真っ黒になっており、2時間毎の交替でも服には汗で結晶した塩が見られます。「高温警報で武漢が焼肉モードに入った!」とか、「焼肉とは、クミンをかけるだけの距離だよ」とか、「外で地面に転んだら三級のやけどになる可能性が高い」とか、ツイッターでも暑さを揶揄する面白い発言が続々とみられます。

この50年間で最も暑い夏となり、武漢市民は生活維持のため様々な策を取らなければならないので、生活コストもうなぎ登りに上がっています。

「電気・水道・ガス代の上昇」

武漢の家庭は、一般的に居間と寝室にエアコンをつけています。高温を避けるため、必要な外出以外、ほとんどの武漢市民は室外行動を控え、エアコンをつけたまま家に籠っています。武漢電力会社のデータによりますと、6月20日以来、武漢電力の負荷量は10回ほど新記録が出て、6月20日に昨年同期の719万キロワットの歴代記録を突破し、8月9日には820.5万キロワットのピーク値に達しました。三人世帯の家庭の電気代は、平均で昨年同期比、約100元多くかかっています。

水務グループのデータによりますと、6月1日から8月15日まで、総使用水量が1.97億トンに達し、一日の使用水量が260万トンを突破し、昨年同期比20万トン増となっています。

暑気を払うため、武漢では緑豆のお汁粉を煮て食べる習慣があります。また、毎日汗をたくさんかくので、湯冷ましを多めに補充する必要もあります。武漢天然ガス会社のデータによりますと、今年7月のガス使用料は9100万立方メートルで、昨年同期の7500立方メートルより増加しました。

「通勤のタクシー代・ガソリン代急増」

真夏のバスの人込みが嫌でタクシーを選択する人が増え、バス利用時より通勤代が増加しています。また、自家用車で通勤する人にとっては、エアコンをつける

ので、ガソリン代も高くなっています。ガソリン1リットルあたりの単価を7.4円で計算すると、乗用車の場合、月に約300元多くガソリン代がかかるそうです。

「外食・冷たい飲み物・スイカ購入の割合が増える」

夏に相応しい果物はスイカ、葡萄、外出には冷たい飲み物…これらは毎日欠かせない支出項目で、月に少なくとも200～300元はかかるでしょう。また、高温の影響を受け、キッチンの温度はいつも40度近くになるため、主婦がキッチンの暑さに我慢できず、家で作るより、インスタント食品や出前、外食などを選択することが多く、生活コストがみるみる上がっています。



武漢動物園

「プール代が高い」

武漢は水資源が豊富ですが、泳げる場所は限られます。暑い夏は子供達が夏休みでもあることから、毎年、長江や湖等の遊泳が認められていない水場での水難事故で、命を落とす子供が十数名ほどいます。

暑い夏にプールに入ると、涼しく感じます。しかし、プールの入場料は決して安くはありません。室内プール、東湖のビーチ浴場のような一般的な水泳プールは、25元～50元です。この夏、最も人気の高い遊園地のマヤ水上パークの入場料は150元です。高額ですが、毎日、芋を洗うように(中国では、鍋の中の餃子のようにとといいます。)客が満杯状態となっています。入場料が高いため、プール代だけで月に千元を超える家庭も少なくありません。



マヤ楽園



水上楽園

8月21日に*「三伏」期間が終わりましたが、武漢の暑さはまだまだ終わっていません。気象予報士によると、9月下旬から涼しくなるだろうとのことで、しばらくの間、我慢が必要なようです。

*「三伏」: 夏のもっとも暑い期間。初伏、中伏、末伏の総称。およそ7月中旬から8月中旬までの期間。今年は7月14日から8月21日まで。